

30年度県外視察研修報告

花田養護学校 山田朋加

研修のテーマ

キャリア教育の視点を取り入れた授業や他県の特別支援教育を知る

- 1 視察期日 平成31年2月8日(金)
- 2 視察場所 東京都立北特別支援学校
- 3 研修報告

(1) 研修の概要

キャリア教育の充実を目指した授業づくりを7年間に渡り研究してきている北特別支援学校を視察し、キャリア教育をどのように授業に取り入れているのかについて知り、これからの自分自身の教育実践に生かしていく。

(2) 研修から感じたこと

北特別支援学校では「キャリア教育」に視点を置き、研究が積み重ねられてきていた。それぞれの教育課程に応じた「キャリア教育の流れ表」という北特別支援学校独自のものが作成されており、キャリア教育的な力を右記の表の「人と関わる力」「はたらく力」「自己決定する力」の3つの側面から捉え、さらにそれらを11項目に分類して授業づくりを行っているとのことで、どの指導案にもキャリア教育のねらいが明記されていた。

小学部高学年の生活単元学習では、「役割を果たす」「自分でやる」というキャリア教育の目標のある、学校紹介ビデオ『キタテレビCM』をつくらうという単元の一部を参観させていただいた。話し合う活動の中で、発語のない児童の隣には教職員がいてその児童の考えを教師とのやり取りの中で聞き取ったり、児童の手話を読み取りその考えを代弁したりと、どの児童の考えも「話す」「きく」ということが保障されていた。また、それぞれの児童に合った学習カードが用意されており、自分の考えを視覚的にも整理しやすいよう工夫されていた。

高等部の作業学習では、「伝える」「役割を果たす」「期待する」というキャリア教育の目標のある、『しおり作り』の授業を参観させていただいた。しおりの紙をどこまで入れたらいいかが分かるよう裁断機に目印となるシールが貼られていたり、姿勢保持の教具はその日の体調に合わせて調整ができるようになっていたり、細かな所まで環境作りがされていた。また作業後の片付けも、手の届く所にケースが置かれているなど、自分の場所を自分で片付けられるための場作りがされていた。それぞれの作業が合わさって1つのしおりが完成するように仕組みられているため、生徒たちが達成感を味わえる授業だった。そのため、生徒が自分の作業を最後までやり通すことができるように教師は見守ることを大切に、生徒からの依頼のもと支援するという所も良かった。

(3) 研修を通して 私のこれからの課題

「キャリア教育は生き方指導である」という言葉が、今も心に残っている。目の前にいる子どもが社会に出ていく時、どんな力が身についていると良いのか、そのために今どんな支援を行っていったら良いのか、これからもよく考えていきたいと思う。

